

付. 指針の策定経緯と参考資料

付 - 1 策定経緯等

この指針は、これまでの県内外のユニバーサルデザインによる建物整備の事例を参考とし、多くの方から意見をいただき、また、ワークショップ等に参加しながら策定しています。具体的には次のような流れで策定しています。

(策定経緯)

- 平成14年6月14日 県内内関係各課による検討会議(第1回)
- 平成14年6月19日 県内内関係各課によるワーキンググループ会議(第1回)
県内内関係各課職員によるUD整備事例プレゼンテーションの開催
- 平成14年7月8日 県内内関係各課によるワーキンググループ会議(第2回)
- 平成14年7月17日 県内内関係各課による検討会議(第2回)
- 平成14年7月25日 公共的建築ユニバーサルデザイン指針策定委員会(第1回)
- 平成14年8月5日 (社)熊本県建築士事務所協会とのガイドライン策定に係わる意見交換会(第1回)
- 平成14年8月12日 (社)熊本県建設業協会建築部会とのガイドライン策定に係わる意見交換会(第1回)
- 平成14年8月19日 (社)熊本県建築士事務所協会及び(社)熊本県建設業協会建築部会とのガイドライン策定に係わる意見交換会(第2回)
- 平成14年8月23日 県内内関係各課によるワーキンググループ会議(第3回)
- 平成14年9月4日 県内内関係各課による検討会議(第3回)
- 平成14年9月26日 公共的建築ユニバーサルデザイン指針策定委員会(第2回)
- 平成14年10月12日 公共的建築ユニバーサルデザイン指針策定委員会ワークショップ
- 平成14年11月25日 県政パブリックコメントの実施
~12月24日

(UD建物整備等に係る関連事項)

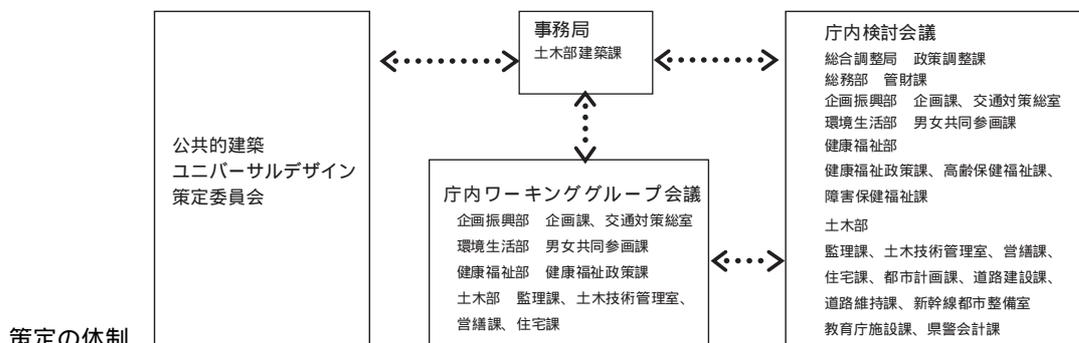
- 平成14年3月6日 JR水前寺駅舎整備に係る利用者意見交換会
- 平成14年5月28日 道の駅 錦 公衆トイレ整備に係る利用者意見交換会
- 平成14年7月6日 熊本市立出水小学校家庭教育学級親子UDワークショップ
- 平成14年8月21日 県庁舎改修工事サイン計画意見聴取会
- 平成14年8月30日 真和中学校第3学年学年行事UDワークショップ
- 平成14年12月13日 JR水前寺駅舎整備に係るワークショップ

(策定委員会名簿)

- | | | |
|----|--------|---------------------------|
| 座長 | 田中 直人 | (摂南大学工学部教授) |
| | 磯貝 恵三 | (崇城大学芸術学部教授) |
| | 柏原 優一 | (熊本県商店街振興組合連合会青年部理事) |
| | 藏元 昭一 | (社団法人熊本県医師会理事) |
| | 竹田 勉 | (社会福祉法人熊本県身体障害者福祉団体連合会理事) |
| | 友住 容子 | (報徳保育園園長) |
| | 西尾 剛人 | (社団法人熊本県建設業協会建築部会会長) |
| | 萩野 仁美 | (株式会社アイ・デザイン チーフデザイナー) |
| | 村上 良知 | (熊本県立大学環境共生学部教授) |
| | 八木 龍平 | (社団法人熊本県建築士事務所協会会長) |
| | 山口 佐智子 | (熊本市消費者団体連絡会監事) |
| | 渡邊 一成 | (社団法人熊本県老人クラブ連合会事務局次長) |

敬称略

付 - 2 参考資料



この指針は、次のような資料及び建物整備事例を参考に策定しています。

(建物整備参考事例)

(50音順)

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1 R & B熊本ワシントン通 | 熊本県熊本市下通2 - 2 - 1 8 |
| 2 アクアドーム | 熊本県熊本市荒尾2-1-1 |
| 3 九州電力熊本支店 | 熊本県熊本市上水前寺1-6-36 |
| 4 熊本県警察本部運転免許センター | 熊本県菊陽町手川12655 |
| 5 熊本県庁舎 | 熊本県熊本市水前寺6-18-1 |
| 6 熊本県民交流館「パレア」 | 熊本県熊本市手取本町8-9 |
| 7 熊本テルサ | 熊本県熊本市水前寺公園28-51 |
| 8 KKRホテル熊本 | 熊本県熊本市千葉城町3-31 |
| 9 草千里公衆トイレ | 熊本県阿蘇町 |
| 10 鶴屋百貨店東館 | 熊本県手取本町8-1 |
| 11 びぶれす熊日会館 | 熊本県熊本市上通2-12 |
| 12 国際障害者交流センター「ビッグ・アイ」 | 大阪府堺市茶山台1-8-1 |

(参考資料一覧)

(50音順)

- | | |
|---|------------------------------------|
| 1 移動円滑化建築設備等ガイドライン | 国土交通省 |
| 2 建築を誰にでも使いやすいものにするための設計指針
(ノーマライゼーション設計指針95) | (株)日建設計 |
| 3 公共交通機関旅客施設の移動円滑化ガイドライン | 交通エコロジー・モビリティ財団 |
| 4 視覚障害者誘導用ブロック設置 | 熊本県土木部道路維持課 |
| 5 すべての人にやさしいトイレをめざして | (社会福祉法人熊本視力障害者福祉会) |
| 6 商店街へのユニバーサルデザイン導入に
関する調査研究報告書 | 交通エコロジー・モビリティ財団 |
| 7 バリアフリーカタログ「パブリックトイレ編」 | 熊本商工会議所 |
| 8 ひと目でわかるシンボルサイン
(標準案内用図記号ガイドブック) | TOTO |
| 9 ユニバーサルデザインを活かした建築設計
(誰もが使いやすい建物づくり・ビジュアルガイド2001) | 交通エコロジー・モビリティ財団 |
| | 静岡県都市住宅部 公共建築における
ユニバーサルデザイン研究会 |

(参考書籍一覧)

(50音順)

図書名	著者	出版社
1 究極のバリアフリー駅をめざして	国土交通省総合制作局交通 消費者行政課:監 交通エコロジー・モビリティ財団:編	大成出版社
2 くまもとカラーガイド 色彩景観ガイドライン	熊本県	
3 建築とユニバーサルデザイン	古瀬敏	オーム社
4 五感を刺激する環境デザイン	田中直人・保志場国夫:著	彰国社
5 サイン環境のユニバーサルデザイン	田中直人・岩田三千子:著	学芸出版社
6 視覚障害者が街を歩くとき	津田美知子	都市文化社
7 住民工学としてのユニバーサルデザイン	吉川勝秀	理工図書
8 すべての人にやさしいまちづくり事例集	(財)地域活性化センター	(財)地域活性化センター
9 誰にとっても快適な空間としての駅等の交通 施設整備に向けて - ユニバーサルデザインによる交通施設整 備による都市再生をめざして -	国土交通省	
10 淡海ユニバーサルデザイン点検プログラム	滋賀県	
11 デザインの未来	古瀬敏:編	都市文化社
12 都市交通のユニバーサルデザイン	国土交通省都市交通調査室:監 秋山哲男:編著	学芸出版社
13 緑空間のユニバーサルデザイン	(社)日本造園学会:編	学芸出版社
14 みんなでつくるまちづくり手引書	滋賀県	
15 森のユニバーサルデザイン	大田猛彦:監 森林総合利用施設におけるユニバーサル デザイン手法のガイドライン作成委員会: 編	日本林業調査会
16 ユニバーサル・デザイン	川内美彦	学芸出版社
17 ユニバーサルデザイン教科書	中川聡:監	日経BP社
18 ユニバーサルデザインとは何か	古瀬敏:編	都市文化社
19 ユニバーサルデザイン入門	静岡県:編 しずおかユニバーサルデザイン専門委員:著	ぎょうせい
20 ユニバーサルデザインを活かしたエレベーター ガイドライン調査研究報告書	(社)日本産業機械工学会	

ユニバーサルデザイン建築ガイドラインの策定に際して

高齢者や障害者のみならず、すべての人を考慮した建築デザインは、従来のバリアフリーだけでは実現できない。すなわち、バリアフリーそのものを高度化し、水準を上げていくことが求められる。そのためには、これまでの建築空間について、利用者からの評価が必要である。より多くの評価を重ねることで、より多くの人にやさしい建築空間の実現に向けた手がかりを得ることができる。また、デザインそのものを一定の基準として示された内容だけで展開することには限界がある。基準はあくまで必要最小限の目安であって、最高目標ではない。ユニバーサルデザインは、理想的にはすべての人をターゲットにしたデザインであるが、実際にはすべての人の要求を満たすために、ひとつの解決方法を導くのは困難である。しかし、これまでのデザインよりは少しでも多くの人を考慮したデザインは可能である。そこにはより多くの利用者が要求する空間性能を把握するシステムが必要である。

このガイドラインは、より多くの県民にとって少しでも使いやすく、やさしい建築空間を提供したいという願いを込めて策定されたものであるが、絶対的基準ではない。すなわち「このとおりすれば後は何もすることはない」というものではないのである。機械的に適用されるものではなく、個々の場面において、本来、施設関係者や建築家が建物を利用するさまざまな人々のことを当然として思い描くときに、やさしい気配りに至るヒントや手がかりを示そうとしたものである。その意味ですべての点でモデルとはいえないが、身近な県内の事例を中心に、その評価着目されるべき点を紹介し、具体的な解決への糸口を示そうとしている。何分にも多くの関係者の意見を頂きながらも、まだまだ不十分な箇所もあるかも知れないが、今後のユニバーサルデザインの展開、浸透によって、さらに優れた事例が多く現出し、これらの事例を超えて、新たなユニバーサルデザインのベクトルが示されるよう、このガイドラインをみんなの手で育てていかなければならないと考える。ユニバーサルデザインは決してひとつの答えが最初から存在するのではなく、たゆまず時代や社会の進展とともに、私達のノーマライゼーションの実現に向けて前進していくべきものである。したがって、結果だけではなく、そのデザインを生み出していくプロセスや結果に対して、謙虚に評価検証していくことも重要な作業である。このようなユニバーサルデザインの考え方を実現する場としての建築空間の役割や影響も大きい。このガイドラインの策定をきっかけとして、一つひとつのチャレンジがより多くの人々の参加や参画のもとで大きく育ち、この熊本の地から世界に発信していくことを期待したい。

公共的建築ユニバーサルデザイン策定委員会座長 田中 直人